

平成30年度決算のあらまし



鹿児島市シンボルマーク「マグマシティ」



火山防災トップシティ構想



クリエイティブ産業創出拠点施設「マークメイザン」



西郷どん 大河ドラマ館

目次

- 30年度の主な事業実績・・・P1
- 30年度決算の状況・・・P3
- 一般会計決算額の内訳・・・P4
- 健全化判断比率と資金不足比率・・・P7

平成 30 年度の主な事業実績

「市民が主役の鹿児島市の実現」に向け、次の 7 つの基本政策の推進に重点的に取り組みました。

1 人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち

① 明治維新 150 周年事業〔77,675 千円〕

② 明治維新 150 年 “維新のふるさと 鹿児島市”
PR 事業〔49,264 千円〕

明治維新 150 周年を記念し、大河ドラマ「西郷どん」と連動して、ドラマ出演者を招へいしたイベントや薩摩維新ふるさと博などを開催するとともに、市内各所で幕末・維新期の雰囲気を感じられるおもてなしの充実を図りました。



③ ラグビーワールドカップ 2019(TM) 公認チーム
キャンプ地誘致事業
〔858 千円〕

ラグビーワールドカップ 2019 の南アフリカ代表チーム事前及び公認キャンプ地に決定しました。



④ 国際青年会議所アジア太平洋地域会議開催支援事業〔30,000 千円〕

国際青年会議所アジア太平洋地域会議（ASPAC）の本市での開催を支援し、国内外との交流を進めました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 明治維新 150 周年薩長同盟交流事業
- 路面電車観光路線検討事業
- 磯新駅検討調査事業
- 桜島・錦江湾ジオパーク推進事業
- サッカー等スタジアム整備検討事業
- 古本興業連携誘客促進事業
- 観光事業創出支援事業
- 北前船交流拡大推進事業
- 観光農業公園地域おこし協力隊活動事業 など

2 健やかに暮らせる安全で安心なまち

① 産婦健康診査事業〔18,495 千円〕

産後 2 週間と 1 か月に産婦の健康診査を実施し、産後の支援の充実を図りました。



② 成年後見制度利用促進事業〔13,880 千円〕

新たに成年後見センターを設置し、成年後見制度の利用促進を図りました。

③ 火山防災トップシティ構想策定事業〔8,131 千円〕

世界トップクラスの火山防災対策を国内外にアピールするとともに、さらなる充実につなげるため火山防災トップシティ構想を策定しました。

④ 口腔保健支援センター設置事業〔723 千円〕

歯科口腔保健を推進するための拠点として口腔保健支援センターを設置し、歯科疾患の予防や歯科口腔保健に関する知識等の普及啓発に努めました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 風しん予防接種事業
- 不育症治療費助成事業
- 未来を守るミルク支給事業
- 児童相談所設置検討事業
- こども医療費助成事業
- 高齢者の元気応援協賛店登録事業
- 日常生活用具給付事業
- 移動支援事業
- 女性消防団員活躍推進事業
- 災害廃棄物処理計画策定事業 など

3 水と緑が輝く人と地球にやさしいまち

① 新南部清掃工場（ごみ焼却施設・バイオガス施設）
整備・運営事業〔970,154 千円〕

ごみ焼却施設とバイオガス施設を一体的に整備する新南部清掃工場の工事に着手しました。

③ かがしま環境未来館リニューアル事業〔10,925 千円〕

かがしま環境未来館の展示物等のリニューアルに向けた基本・実施設計を行いました。

② かがしま市民みんなであつなごう「COOL CHOICE」
推進事業〔9,906 千円〕

国民運動「COOL CHOICE」と連携し、市民や事業所等と一体になって地球温暖化対策に関する情報発信や普及啓発に取り組みました。

④ 南国・鹿児島 花と緑のおもてなし事業〔28,833 千円〕

鹿児島中央駅周辺に花木を植栽し、南国・鹿児島を感じさせる都市空間を創出しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 再生可能エネルギー熱のモデル的導入促進事業
- 親子で取り組む「もやせるごみ」減量実践モニター事業
- 生物多様性自治体ネットワークフォーラム等開催事業
- 草木類資源化モデル事業
- 武岡公園整備事業
- 市立病院跡地緑地整備事業 など

4 地域産業で若者や女性が活躍できるまち

①企業立地推進事業〔145,908千円〕

首都圏等における企業訪問を行うとともに、県内外企業の立地に対し、新規雇用や設備投資等への支援を行うほか、健康産業等の成長分野やコールセンター等の企業を対象に企業立地のためのアンケート調査を実施しました。

②新産業創出支援事業〔9,754千円〕

新サービス等の開発に向けた取組に対し助成するとともに、ヘルスケアビジネスのアイデアを創出するため、専門家による個別事業化支援等を行いました。

③クリエイティブ産業創出拠点整備事業〔168,709千円〕

ソフトプラザかごしまをクリエイティブ産業創出拠点施設「マークメイザン」として整備し、供用開始しました。

④都市農業センター土曜マルシェ実施事業〔487千円〕

都市農業センターにおいて「土曜マルシェ」を開催し、市内産農産物の周知に努めました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- かごしまで働きたい若者応援協議会運営事業
- 働きたい女性の就活応援事業
- フードビジネス推進事業
- 中小企業資金融資事業
- 新規就農者支援対策事業
- 漁業施設整備支援事業
- など

5 学ぶよろこびが広がる誇りあるまち

①次世代を切り拓く青少年育成事業〔5,162千円〕

グローバルな人材育成を目的として新たに小学5・6年生を対象とした「ジュニア創志塾」を開催しました。



②パークゴルフ場整備事業〔57,506千円〕

パークゴルフ場整備に向けて、実施設計を行うとともに、整備工事に着手しました。

③地域の文化芸術サポート事業〔3,824千円〕

市民文化祭等を文化団体と共催するとともに、文化団体等が企画する事業に対して助成しました。



④女性活躍推進事業〔2,056千円〕

経営者等の意識改革や女性管理職の育成に向けたセミナーを実施し、女性活躍の推進を図りました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 校舎・屋体等整備事業
- 校舎建替事業
- 明治維新150周年記念かごしまの文化財絵画・写真コンクール事業
- 文化薫る地域の魅力づくりプラン推進事業
- 国民体育大会等準備事業
- 体育施設等国体関連事業
- など

6 市民生活を支える機能性の高い快適なまち

①中央町19・20番街区市街地再開発事業〔244,004千円〕

②千日町1・4番街区市街地再開発事業〔243,739千円〕

再開発ビルの本体工事等に対し助成するとともに、千日町再開発ビル内におけるまちなか図書館（仮称）の整備に向けた検討を行いました。



③鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業〔1,056,424千円〕

自由通路や駅舎の整備工事に着手し、駅前広場や上本町磯線の用地取得等を行いました。



④団地再生推進事業〔7,606千円〕

活力ある団地の再生に向け、地域住民等とのワークショップや団地の基礎調査等を行いました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 土地区画整理事業の推進
- 谷山地区連続立体交差事業
- 新交通バリアフリー基本構想推進事業
- 公共交通不便地対策事業
- いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業
- 都市公園建設事業
- など

7 市民と行政が拓く協働と連携のまち

①みんなの町内会応援事業〔46,326千円〕

町内会の活動に対する助成を拡充するとともに、加入促進に向けた啓発を行いました。

②「鹿児島市シティプロモーション戦略ビジョン」策定事業〔49,999千円〕

シティプロモーション戦略ビジョンを策定するとともに、シンボルマーク「マグマシティ」や本市の魅力発信のためのシティプロモーション動画を制作しました。



③若者未来会議開催事業〔2,600千円〕

若者が活躍できる地域づくりをテーマとした若者未来会議を開催しました。



④かごしま移住支援

・プロモーション事業〔4,364千円〕

移住支援コーディネーターの配置により、移住促進の取組を強化しました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- コミュニティビジョン推進事業
- まちづくり「未来の担い手」育成事業
- NPO基盤強化事業
- ネクスト「アジア・鹿児島」イノベーション戦略策定事業
- 多彩な魅力発信アプリ構築事業
- など

平成 30 年度 決算の状況

区 分	歳入 (A)	歳出 (B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C-D)
一般会計	2,567 億 4,177 万円	2,492 億 7,518 万円	74 億 6,659 万円	15 億 8,216 万円	58 億 8,443 万円

区 分	歳入 (A)	歳出 (B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C-D)
特別会計	1,296 億 2,034 万円	1,311 億 7,883 万円	△15 億 5,849 万円	0	△15 億 5,849 万円
土地区画整理事業清算	337 万円	63 万円	274 万円	0	274 万円
中央卸売市場	35 億 7,077 万円	35 億 6,726 万円	351 万円	0	351 万円
地域下水道事業	6,195 万円	5,835 万円	360 万円	0	360 万円
桜島観光施設	9,857 万円	9,857 万円	0	0	0
国民健康保険事業	661 億 1,839 万円	692 億 3,320 万円	△31 億 1,481 万円	0	△31 億 1,481 万円
介護保険	518 億 9,240 万円	504 億 8,258 万円	14 億 982 万円	0	14 億 982 万円
後期高齢者医療	74 億 1,235 万円	73 億 3,884 万円	7,351 万円	0	7,351 万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	4 億 6,254 万円	3 億 9,940 万円	6,314 万円	0	6,314 万円

区 分	収入 (A)	支出 (B)	差引 (A-B)
企業会計	475 億 5,446 万円	463 億 3,225 万円	12 億 2,221 万円
病院事業	213 億 3,386 万円	210 億 6,380 万円	2 億 7,006 万円
交通事業	44 億 88 万円	51 億 6,601 万円	△7 億 6,513 万円
水道事業	115 億 706 万円	99 億 468 万円	16 億 238 万円
工業用水道事業	690 万円	639 万円	51 万円
公共下水道事業	79 億 8,189 万円	74 億 4,393 万円	5 億 3,796 万円
船舶事業	23 億 2,387 万円	27 億 4,744 万円	△4 億 2,357 万円

※ 企業会計は収益的収支を税抜き額で表示しています。

【ポイント】

一般会計は、歳入額から歳出額を差し引いた額（形式収支額）は 75 億円ですが、ここから翌年度で支払わなければならない繰越財源 16 億円を引いた額（実質収支額）は、59 億円となり、前年度に引き続き黒字を確保しました。

特別会計は、国民健康保険事業特別会計において 31 億円の赤字となりましたが、令和元年度からの繰上充用で対応しました。また、その他の特別会計は黒字又は収支均衡となりました。

企業会計は、交通事業、船舶事業において赤字となりましたが、その他の企業会計は黒字を確保しました。

一般会計

市の会計の基本であり、福祉、医療、教育や道路・公園の整備など基本的な行政サービスを行う会計です。

主な収入は、市税や国・県支出金などです。

特別会計

特定目的のための会計で、国民健康保険税や介護保険料など特定収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を管理する会計です。

〔30 年度 8 会計〕

企業会計

地方公営企業（市立病院、交通局、水道局、船舶局）の会計で、民間企業と同じように、事業で収益をあげて運営する会計です。

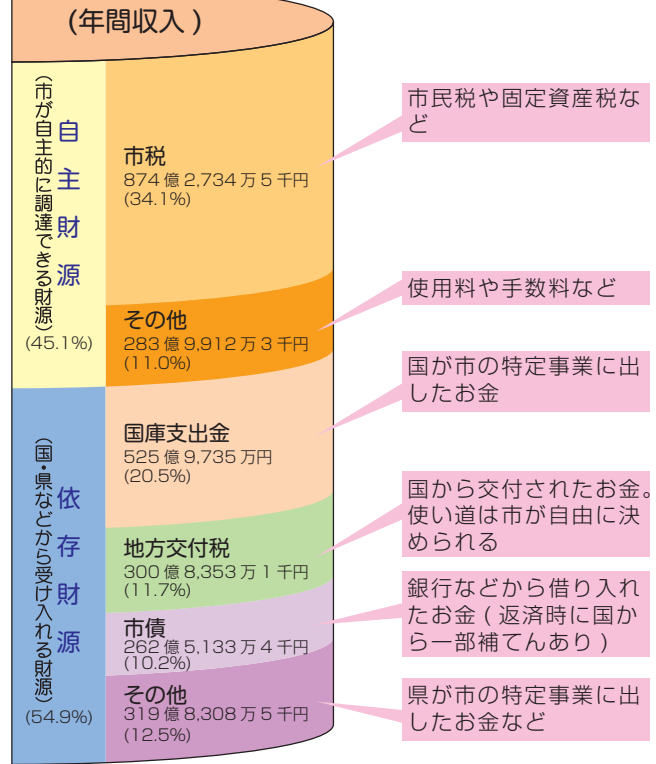
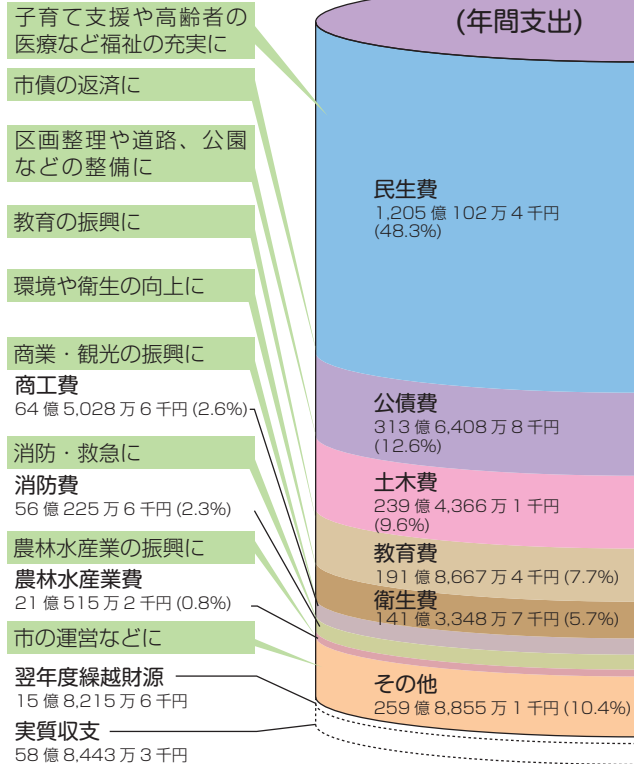
〔30 年度 6 会計〕

一般会計決算額の内訳

歳入：国庫支出金が増加
歳出：民生費が増加

歳出
2,492 億 7,517 万 9 千円

歳入
2,567 億 4,176 万 8 千円



【歳出のポイント】

歳出総額は、2,493 億円で、前年度比 62 億円 (2.6%) の増となりました。
歳出で最も多いのは、社会保障関係経費である子育て支援や生活保護費などに使われる民生費の 1,205 億円で、前年度と比較し、24 億円 (2.1%) の増となりました。民生費の一般会計全体に占める割合は 48.3% になりました。

【歳入のポイント】

歳入総額は、2,567 億円で、前年度比 68 億円 (2.7%) の増となりました。
歳入で最も多いのは市税の 874 億円で、市民税の増などにより、前年度と比較し、1 億円の増になりました。この他、市街地再開発事業の増などに伴う国庫支出金が増加しました。

市民 1 人当たりの使い道は？

1 人当たり約 41 万 4 千円のうち、福祉の充実に約 20 万円

一般会計の歳出決算額 2,493 億円の使い道を市民 1 人当たり換算してみました。

市民 1 人当たり 約 41 万 4 千円の使い道

○子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に
約 20 万円



○市債の返済に
約 5 万 2 千円



○商業・観光・農林水産業の振興に
約 1 万 4 千円



○教育の振興に
約 3 万 2 千円



○消防・救急に
約 9 千円

○区画整理や道路、公園などの整備に
約 4 万円



○環境や衛生の向上に
約 2 万 3 千円

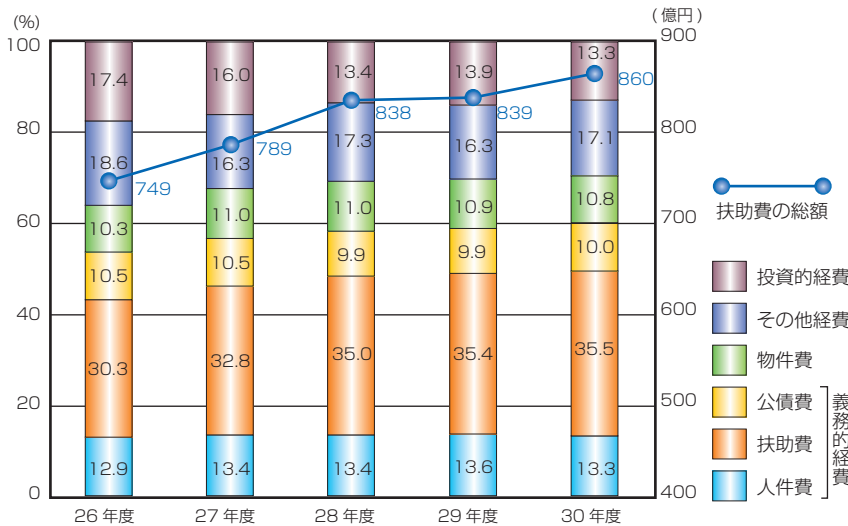


○市の運営などに
約 4 万 4 千円



歳出決算（性質別）の推移（普通会計）

扶助費は年々増加



【歳出決算のポイント】

生活保護や子育て支援、高齢者の医療などの扶助費が、前年度に引き続き増となり、総額に占める割合も年々高くなっています。30年度決算では、全体の35.5%を占めています。

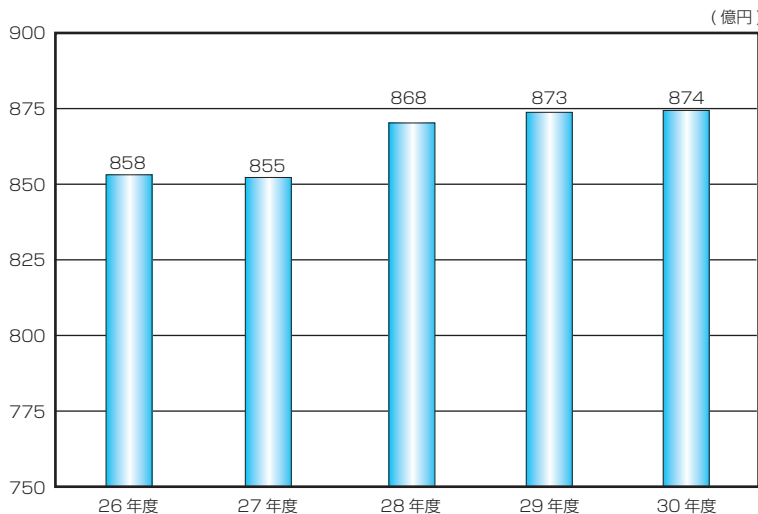
■用語メモ

「普通会計」とは、各市町村の決算状況を統一的に比較するために地方財政統計で用いられている会計区分です。

鹿児島市では、一般会計のほか、土地区画整理事業清算、地域下水道事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の3特別会計を合わせたものです。

市税の推移

30年度は前年度より1億円増加



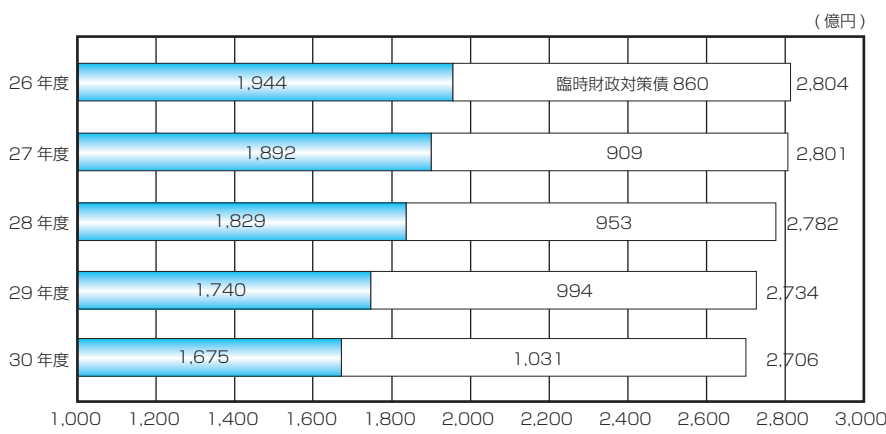
【市税のポイント】

市税は鹿児島市のまちづくりを行うための最も重要な財源で、市民税や固定資産税、都市計画税などがあります。

30年度決算は、市民税が増加したことなどにより、前年度より1億円増の874億円となり、歳入全体の3.4%を占めています。

市債残高の推移

実質的な残高は減少傾向



(1) グラフの右部分は実質的な地方交付税である臨時財政対策債です。

(2) 左部分は臨時財政対策債を除いた残高です。

【市債残高のポイント】

市債は、道路や公園などを整備するにあたり、将来の市民の皆さんにも公平に費用負担をしていただくため、また、返済時に国から地方交付税が配分される観点から発行しました。

臨時財政対策債を除く実質的な市債残高は、前年度より65億円減少しました。

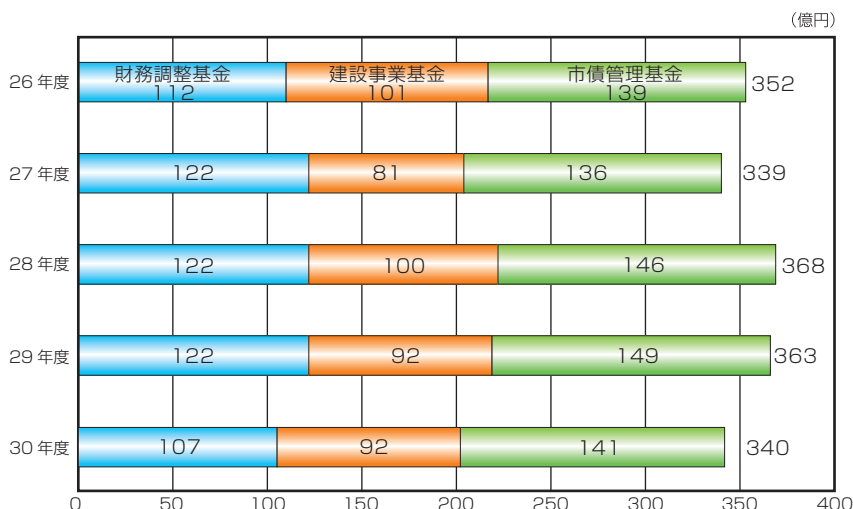
(市民1人当たり28万円となりました。)

■用語メモ

「臨時財政対策債」とは、本来は地方交付税として、国から配分されるお金を国の財政上の都合で市が借りているものです。返済はすべて国の負担です。

基金残高の推移

30年度は前年度より23億円減少



【基金残高のポイント】

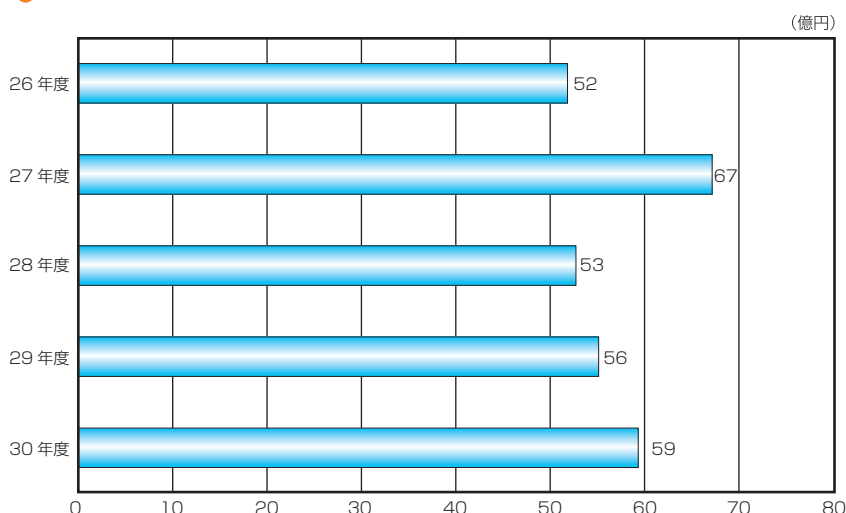
基金は、一般家庭の貯金に相当するもので、左の3基金については、必要に応じて積立てや取崩しを行っています。

この3基金は、少子高齢化、人口減少、社会保障関係経費の増加、公共施設等の適正管理、災害などに対処していくために必要な財源です。

30年度の残高は、前年度から23億円減少し、340億円になりました。(市民一人当たり6万円となりました。)

実質収支の推移

30年度は59億円の黒字を確保



【実質収支のポイント】

事務事業のしゅん別や見直し、経費の効率的な執行を行ったほか、可能な限りの財源の確保に努めたことなどにより、30年度決算では、59億円の黒字額を確保し、引き続き、健全財政を維持することができました。

■用語メモ

「実質収支」とは、その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

平成30年度決算のまとめ

本市の30年度決算は、前年度に引き続き黒字を確保し、実質的な市債残高を減少させた一方で、基金残高が減少しましたが、健全な財政運営を維持する中で、さまざまな施策を積極的に推進し、市勢の発展と市民福祉の向上に努めました。

今後見込まれる社会保障関係経費の増大など、財政状況は、厳しさを増していくと思われませんが、プライマリーバランスの黒字を確保しながら、可能な限り、各面からの財源を確保し、事業のしゅん別や見直しを行い、健全な財政運営に努めていきます。

■用語メモ

「プライマリーバランス」とは、借金(市債)を除いた歳入と返済(元金)を除いた歳出を比較したもので、歳入の方が多くなければ黒字となり、財政が健全であることを示します。

★予算や決算の状況は、

市ホームページ(【トップページ】→【市政情報】→【予算・決算・財政】→【財政状況】)をご覧ください。

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

健全化判断比率と資金不足比率

※毎年度、「健全化判断比率」と「資金不足比率」の公表が義務付けられています。

● 健全化判断比率

【健全化判断比率のポイント】

市の財政の健全度を測る指標の一つで、基準を超えた場合、計画を定めて財政対策に取り組むこととなります。すべての項目で、早期健全化基準内となっています。

4指標	内 容	30年度決算（速報値）		早期健全化基準 （「IO-カード」）	財政再生基準 （「レッドカード」）
			中核市順位		
実質赤字比率	一般会計などの実質赤字の比率	—	—	11.25%	20.0%
連結実質赤字比率	全会計の赤字や黒字を合算した実質的な赤字の比率	—	—	16.25%	30.0%
実質公債費比率	借入金（地方債）の返済額やこれに準じた額の大きさを示す比率	2.3% (2.7%)	10位/54市 (8位/48市)	25.0%	35.0%
将来負担比率	一般会計などの地方債や将来支払う可能性がある負担などを加味した実質的な負債の比率	23.9% (21.0%)	22位/54市 (18位/48市)	350.0%	

※（ ）内は29年度決算

● 資金不足比率

【資金不足比率のポイント】

公営企業会計の財政の健全度を測る指標で、基準を超えた場合、計画を定め、経営改善に取り組むこととなります。30年度決算では、昨年度に引き続き、資金不足が生じている会計はありません。

公営企業会計	30年度決算	経営健全化基準
病院事業 交通事業 水道事業 工業用水道事業	— (—)	20.0%
公共下水道事業 船舶事業 中央卸売市場 桜島観光施設		

※（ ）内は29年度決算

～「かごしま市決算のあらまし」の作成に当たって～

60万市民の皆さんからお預かりした大事なお金。

市民と協働のまちづくりを進めていくために、大切にに使わせていただきました。

これからの「予算」だけでなく、取組の成果である「決算」を見やすく、わかりやすくお伝えし、あすの鹿児島市につなげていくために「平成30年度決算のあらまし」を作成しました。

市政の主役である市民の皆さんのさまざまなご活躍を、健全財政の維持と創意と工夫に満ちた行財政運営で、これからも支えてまいります。

平成30年度決算のあらまし

編集／発行：鹿児島市財政課

〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 ☎099-216-1155

リサイクル適性の表示：紙ヘリサイクル可